

# CITPによる社会価値創造への挑戦

## 発表概要

1. 欧米と比較して日本は、ビジネスの生産性向上と国際競争力の強化が課題となっている。
2. 課題解決のために、ITを単なるコストではなく、価値創造の源泉とするトレンドが強まっている。
3. CITPはコミュニティ活動を通じて、社会価値創造への取組みを開始しており、その概要を紹介する。

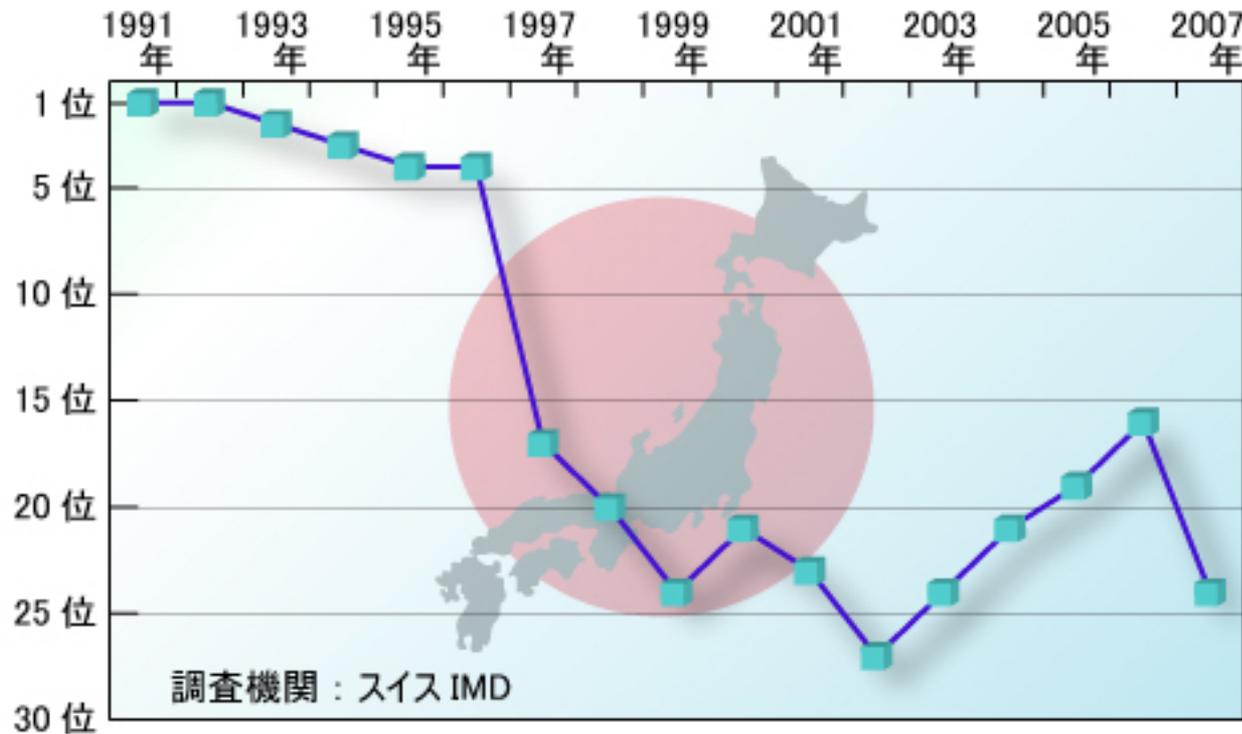
2017/2/3

CITP

赤坂 亮 日本アイ・ビー・エム株式会社  
(個人認定番号13000001)

# 今回取り組みの背景・問題意識

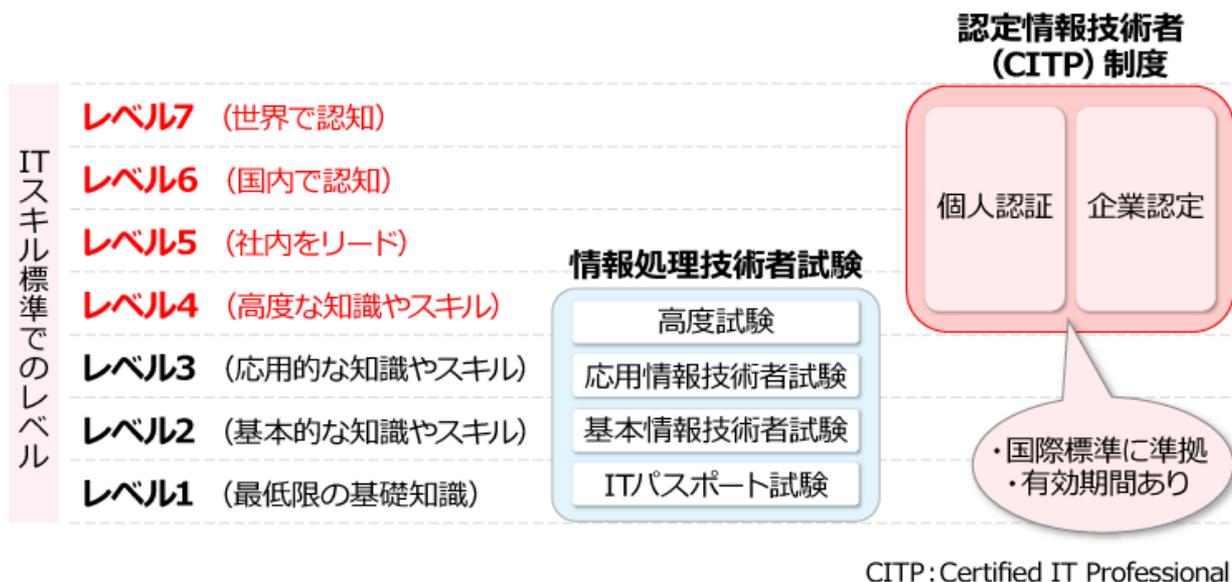
- 我が国の国際競争力は10年以上に渡り、20位前後と低迷（IMD調査）
- 日本経済を活性化させ、我が国の国際競争力を強化するために政府や企業の**社会価値の総量**を高める必要があると考えます。
- 近年、AI/IoTに代表されるようにITを価値創造の源泉とするトレンドが強化



出展 日経BP <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20070820/279899/?rt=ocnt>

# CITPによる社会価値創造への貢献

- CITPは、高度なスキルや豊富な業務実績を持った技術者
- ITプロフェッショナル集団であるCITPのコミュニティが**企業の枠を超えて、社会価値創造に貢献**することが重要



# CITP社会価値創造分科会を新設

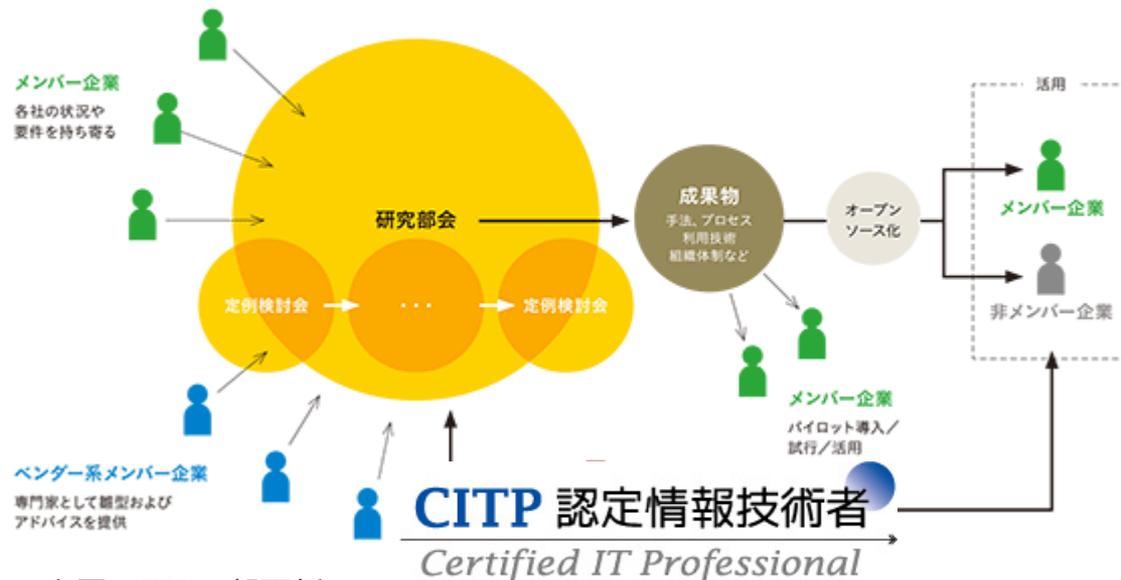
- 目的を達成するために、コミュニティ内部に社会価値創造分科会を新設
- 現在、**企業数10社・参加者15名**にて2016年4月より活動を開始

【目的】 実践可能なプラクティスを調査・研究し、成果を共有、実践。

企業の競争力に加えて日本の国際競争力の向上に貢献

【特徴】 個人認証、企業認定、ユーザ、ベンダを問わず、CITPから参加者を募る  
調査・研究成果は参加者に公開し、各企業において利用可能とする

## 活動イメージ



出展：ITR一部更新

# 社会価値創造分科会の取り組み概要

- 2016年からCITPコミュニティの分科会として次の取り組みを開始しています。

<ul style="list-style-type: none"><li>・CITPの認知度を高めるために、コミュニティ活動情報を広く一般に情報公開</li><li>・ホームページやWebサイトの新設</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・プラクティス調査や検討、活動結果をアニュアルレポートとして社会提言としてまとめる</li></ul>
<b>A</b> <b>コミュニティ全体状況の可視化</b>	<b>C</b> <b>プロフェッショナルによる社会提言</b>
<b>B</b> <b>実践プラクティスの調査・検討</b>	<b>D</b> <b>デザイン思考による社会問題解決</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・実行可能なプラクティスや方法論、手法、ツールを調査して整理する</li><li>・企業の競争力に加えて日本の国際競争力の向上に貢献</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「イノベーションは見ることから始まる」とされ、デザイナーやエンジニア自身が調査に出かけ、自ら観察し気づきを得ることを重視します。</li></ul>

- CITPコミュニティ活動の情報公開としてWebページを作成済みです
- <https://citpblog.wordpress.com/>

## CITP Community

情報処理学会CITPホルダによって運営されるコミュニティサイトです



CITP コミュニティ会則

西暦 2016 年 6 月 10 日 制定

情報システムは現代社会の基本的なインフラとなっており、それを支える情報技術者は高度の能力を有するプロフェッショナルであることが望まれます。ところが、我が国においては情報技術者のプロフェッションが確立しておらず、プロフェッショナルとしての能力を可視化する適当な手段もないのが実情です。そこで、情報処理学会では「認定情報技術者制度」を創設しました。

この制度は、高度の専門知識と豊富な業務実績を有する情報技術者に資格を付与することにより、その能力を可視化するとともに、資格を有する情報技術者からなるプロフェッショナルコミュニティを構築していくことを目的としています。

本サイトは、認定情報技術者（以後CITPホルダと呼ぶ）が運用するコミュニティのサイトです。[会則](#)に則りながら、技術者同士の交流を通じて自律的な質の向上を図る活動や、

### 第1章 総則

(名称)

第1条 本コミュニティはCITPコミュニティ（以下、本会という）と称する

(目的)

第2条 CITP(認定情報技術者)に認定された技術者同士の交流を通じ、自律的に技術者の質の向上を図る場として設立する。社会提言、外部審議会・委員会等への参画、情報分野における教育・人材育成活動などを含む様々なプロフェッショナル貢献活動、及びピアレビューによる高レベル情報技術者の評価等により、社会貢献と技術者自身のレベルアップに資することを目的とする。

(活動)

第3条 本会は前条の目的を達成するため次の活動を行う

- (1) コミュニティ会議、分科会、親睦会などの開催
- (2) 技術を必要とする団体などへの技術協力、並びに情報発信
- (3) その他本会の目的を達成するための必要な活動

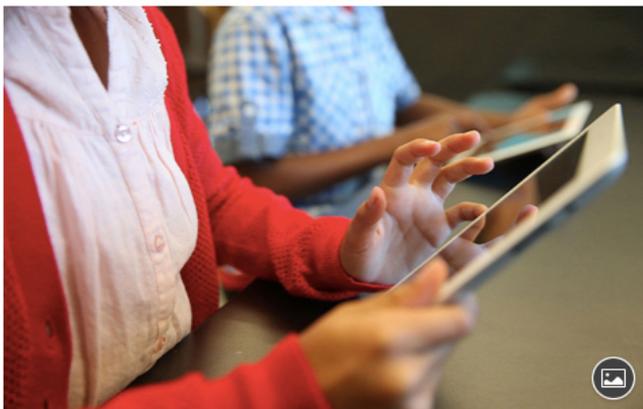
- 定期的に分科会で検討してきた次のテーマについて、**本日説明**します。

タイトル	講演者	概要
日本を強くする 「攻めのIT」	荒木 岳文 (中電シーティーアイ)	これまではコストダウン、業務効率化をターゲットとしてきたIT投資であるが、ビッグデータ、IoTなどの登場を契機に、いよいよ「攻めのIT」への展開が期待される。「攻めのIT」におけるプラットフォームの姿、中小企業やNPOにおける「攻めのIT」、CITPとしての「攻めのIT」に対する貢献などについて提言したい。
小学校段階における プログラミング教育 とCITPとの連携	五十嵐 智生 (野村総合研究所)	「小学校段階におけるプログラミング教育」は、現在、文部科学省の有識者会議において検討が進められており、2020年度からプログラミング教育が義務教育において必修化が予定されている。CITPでは、情報化教育において小学校教員のTA制度を検討しており、その概要と試案を紹介する。

- プロフェッショナルとして**社会価値に貢献するための提言**を行う
- 提言内容は、CITPアニュアルレポートとして公開予定（2017年4月）

## CITP annual report

New value created by data and AI

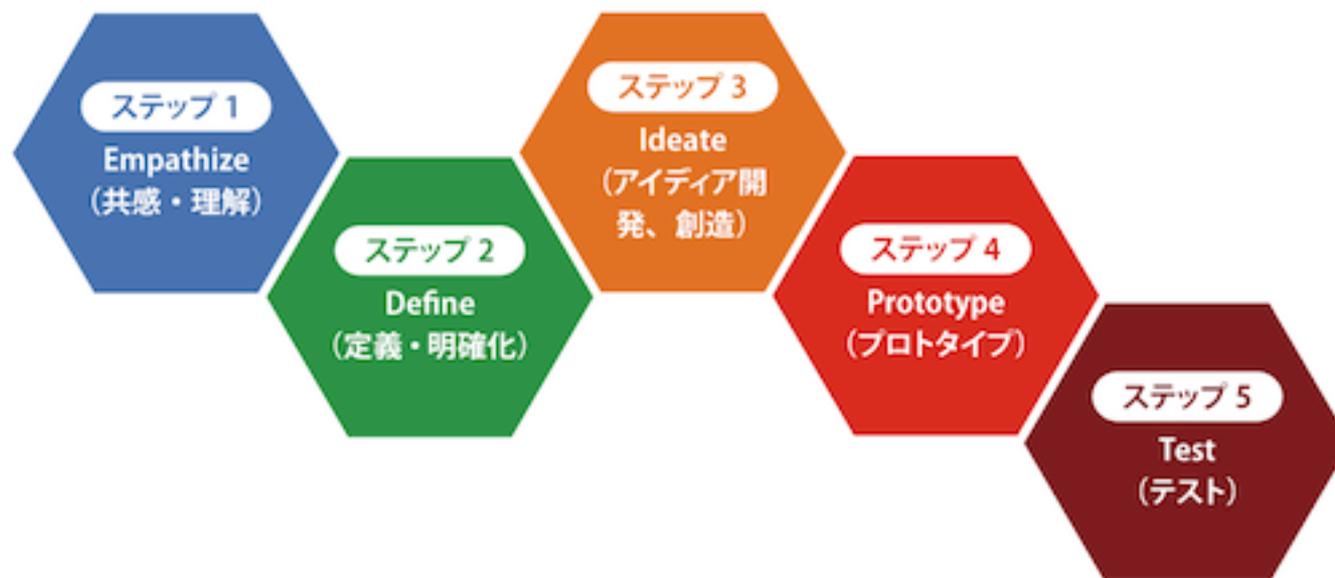


|  
1st Edition

Introduction to ePub .....	3
Getting Started.....	3
Chapter Name.....	4
Chapter Subtitle .....	4
Heading.....	4

- 今後は、提言に留まらず、CITP自らが実践的に問題解決に取り組むために **新規プロジェクト**の立ち上げを企画中です。
- デザイン思考の5つのステップを踏み、**CITPが社会問題の解決**をリードすることを狙います。イノベーションは見ることから始まるとされ、CITP自身が調査に出かけ、自ら観察し気づきを得ることを重視します。

デザイン思考の5つのステップ



東日本大震災から5年、被災者のメンタルヘルスの問題、孤独死、不登校出現率の増加など目に見えない問題が悪化している。

- CITPが実際に現地を訪れ、被災地が現在どうなっているか、現地はどのように考えているか、どのような問題があるのかを理解する

# まとめ

- 日本は、ビジネスの生産性向上と国際競争力の強化が課題
- 課題解決のために、ITを価値創造の源泉とするトレンドが強まっている。
- CITPはコミュニティ活動を通じて、**社会価値創造への取組みを開始**
- 今後もJUASでの発表、アニュアルレポート、新規プロジェクトの実践を通じて社会価値創造に取り組んでいきます。

